

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401302		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム 恵		
所在地	〒854-0121 長崎県諫早市有喜町593番地2		
自己評価作成日	平成21年11月6日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームの姉妹施設として、平成17年10月に「ひとと木ふれあい推進事業」による長崎県の補助を受け、総合福祉施設「有喜福祉村」の中の一つのモデルとして開設しました。施設内は木の香りが漂い利用者とスタッフが一緒になり、笑顔や笑い声も聞かれ、毎日楽しいひと時を過ごされています。施設の前には広大な橘湾を一望できる高台にあり自然環境には恵まれています。又近隣には福祉施設及び医療機関もあり、利用者と家族に大きな安心と信頼を得ています。利用者の生活空間を大切とした家庭的な雰囲気へのケアを推進し、他の施設では出来ない独自のケアの確立を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な地で、法人内併設施設に囲まれた立地の当ホームは、医療を始めとするバックアップによって入居者、家族から信頼と安心を大きく得られている。併設施設にはない地域密着型のよさを、家庭的な生活の中での自立支援、例えば調理の手伝いで入居者が包丁を使われる点などを管理者は挙げられ、理念にあるように日常生活の中での個別支援を職員と共に実践している。周辺環境同様にホーム内もゆったりとしたスペースの中で快適な生活を送ることが出来る。恵まれた環境の中で、「福祉村」外での地域交流を課題としてあげて継続して取り組み、ホームとして出来ることを運営推進会議などで今後も発信、検討していきたいとしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「思いやり・助け合い信頼し合っ て、日常生活を送ります」を合い言葉に、一 つの家族として家庭的な雰囲気の中で過ご して頂けるよう努力している。	市の連絡協議会のホームページ上で、ホーム紹介の 記事を職員が担当した。その中でホームの理念を言葉 に織り込む形で日々の支援における姿勢の表明をして おり、職員への理念の浸透がなされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、地域 の方へホームの運営や行事、方針を伝える 機会を作っている。散歩中には近隣の人達 との会話を大切にしています。	地域との交流は常に課題の一つとして取り組んでいる。今年度 は運営推進会議メンバーである民生委員の方を、地域住民とし てホーム行事の敬老会に初めて招待するなど、あらためてホー ムのことを地域へ理解を深める機会づくりをおこなっている。12 月のクリスマス会には地域住民に参加呼びかけを試む予定で ある。	ホームへ足を運んでいただき、知っていただくこ とのきっかけとして今後も運営推進会議を一つ の窓口として、また法人として地域還元に取り組 み(移動中の方への施設内トイレの使用開放の 看板設置)をされていることから、地域への発信 を継続していかれることに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	立地場所が住宅街と離れているが近隣の 保育園とは、気軽に立ち寄り頂いてい る。運営推進会に地域の代表の方へ出席し て頂き、認知症に対する理解を深めても らえるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、 サービス内容や利用者の状況報告及び活 動報告行っている。家族の声を聞く機会に なり、サービスの向上に活かしています。	民生委員の方が会議をきっかけによりホームの活動に協力的 になっている。多くの家族の声を伺える大切な機会ととらえ、固 定せずに全ての家族に参加をお願いしている。職員もまた外部 の方(会議メンバー)が定期的にホーム内に来られることでいい 意味での緊張感に伴いサービスの質の向上に意識付けができ ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営に関して、助言、指導を 仰ぎ利用者の生活の質を高めています。ま た介護相談員の訪問もあり、サービスの質 向上の上にも取り組んでいます	スプリンクラーの設置という懸案事項、新型インフ ルエンザに関することなど、度々行政担当者に相 談する機会も多い。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	身体拘束の重大性については話し合いな どをして職員全員が理解し、統一した対応 ができるようにマニュアルの作成をしてい ます。	点滴処置が必要になられた入居者が、どうしても 自分で外されようとするのを、見守りをもって対応 し、いかなる拘束もせずケアをおこなっている。法 人内には委員会もあり、内部研修で身体拘束に 関し学び振り返るよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	スタッフ会議で学ぶ機会を持ち、お互いに 注意しあいながら、身体的虐待、言葉使い 等に、十分気を配り虐待防止に努めてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームとして現段階では必要と思われる方がいらっしゃらない為、活用への支援はしていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の取組や支援できる範囲について説明すると共に、利用者や家族の不安に耳を傾け、分かりやすく説明をするよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、必ず話す機会を設け、家族の意見(意向)を伺っている。 運営推進会議への参加も呼びかけ、意見や要望を出していただいている。	年1回の家族会を開催し、敬老会の折も家族への報告と意見聴取の機会としている。今年度は入居者の状況報告と共に「看取り」についてホームの方針を伝えたり、家族アンケートを実施しているが、検討しフィードバックに到る事例は現在までにないので、今後も家族の意見、要望を出していただけるよう継続して努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開き聞く機会を設け、管理者は職員の提案した要望をセクション会議に持っていき反映させている。	ホーム内の会議で出た職員の意見を、月1回の法人内施設全体会議であるセクション会議にて検討を図るようにしている。今年度では、感染予防のためにホーム内で着用した仕事着を洗うことが出来る。要望のあった職員専用の洗濯機を設置するなど、職員意見の反映がうかがえる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、随時業務の見直しを行い、働きやすいように職場環境の整備に心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市G・H連絡協議会等の研修に積極的に参加している。法人内の研修にも受ける機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市G・H連絡協議会に加盟し、研修の参加や職員の交流研修を行ない、グループホーム全体の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面接を行い、日常生活の様子や要望を伺って、今までの生活をホームでも安心して受け入れられる様な関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている、不安や悩みを聞き取り、これからの支援に対する家族の意向を伺い、信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を元に、何が必要かを把握し施設としての改善に向けたケアサービスに努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事をしたり、毎日の掃除・洗濯物を行っている。また、畑に野菜の植え付けや収穫を楽しみながら行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常のケアの中で、家族の協力を得ながらどのようなより良いサービスが出来るか、面会時に家族との話す時間を設けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた町へ出かける機会を設け、住み慣れた町の雰囲気を感じてもらえるように努めています。また、在宅での生活が継続できるように使い慣れた家具等の持ち込みを促している。	帰宅願望の強い方には、生まれ育った近隣の町へ出かけ納得して頂く支援を継続している。冠婚葬祭などの行事には現在のところは家族支援で出かけられている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設全体を一つの家族として捉え、リビングで職員が利用者同士の間に入って、皆で交わるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、いつでも連絡頂けるよう関係を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で利用者の言葉や様子から、本人の希望や意向を把握し、それに添えるよう努めている	病院、他施設からの入居が殆どの為、その際の情報提供表をアセスメントシートとして利用している。	ホーム独自の入居時のアセスメントシートを作成されることが望まれる。退職等の職員異動もあり、現在は午前、午後のパートタイム勤務の職員がいることを考慮して、統一したケアをおこなう為の入居者の情報共有の整備が望ましい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会の親族の方などの来訪時に昔の生活ぶりについて話を聞いたり、本人との話等で把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った支援を行って、ケース記録・連絡ノートで利用者の現状を把握するように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や、家族の思いを聞き反映できるよう、他の職員の意見なども取り入れて何を求めているか・必要としているかを、利用者の立場に立ったうえでの意見交換を行っている。	×式で達成度を示すケアプラン実施表としていたが、内容の把握が職員により統一されず、記入も怠りがちだったことから、現在は廃止しており、支援経過記録から問題抽出して結論(検討結果)を出している。	実施記録のない現在の状態では、担当者会議において材料がないままに検討することとなっている。ケアプラン実施表を再考の上、整備、記録されて評価、モニタリングへ繋げることが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に連絡ノートを活用し、日々の状態変化・気づきを記載し、職員全員で情報の共有・実践に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣施設(福祉村)には医療法人・社会福祉法人があり、当施設は併設施設の入所・ショートステイや訪問介護・通所介護などのサービス等協力関係を取り支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係施設に訪問したり、行事に参加してもらっている。又さわやか相談員によるボランティア活動で楽しく会話をされている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している病院のDrが月2回の定期健診で対応で家族も納得していただいている。外来等の受診は、事業所のスタッフで対応している。	かかりつけ医は入居者のほぼ全員が、法人内併設病院となっているため連携体制がとられており、安心が入居者、家族、職員共に安心が得られている。整形外科などの他科受診も受診支援をおこなっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員が従事している。隣接している病院のDrと看護師による、定期健診を月2回の実施している。健康管理や急変時などの対応が可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、環境の変化による動揺や不安を抱えないように面会に努めている。また、早期に退院ができるように病院関係者との連携をとっている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族と話し合いを行い、施設としてできること出来ないことを説明し、本人と家族の望む生活が送れるように努めている。また近隣施設との連携をとれる体制を取っている。	家族、本人とは重度化、終末期のあり方については入居時には話していない。昨年12月に職員会議において全員で話し合い、ホーム内での医療支援が困難なため、ターミナルケアはおこなわないという方針を導き出し、今年家族会の折に家族に説明した。家族からはターミナルケア希望の意見もあり、今後話し合いを続けながら支援を決めていく予定である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、隣接施設からの応援体制をとっている。G・H連絡協議会・法人内の研修会で、救命講習会を定期的に関催し、全スタッフが受講するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	の火災避難訓練は年2回行い、災害発生時には、隣接施設からの応援体制をとっている。消火器・火災報知機及び自動火災通報装置の設備点検を行っている。	現在、来年1月のスプリンクラー設置に向けて準備中である。消防署立会いの訓練も、来春予定している。	隣接施設との応援体制について、実地での共同訓練が行われていない。避難誘導に関する役割分担など具体的内容を確認し、想定訓練を協力して実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を大切にして、誇りやプライバシーを損ねないように努め、一人ひとりにあった言葉かけに配慮している。	入浴時には入居者に配慮して同性職員で対応するようにしている。排泄時の声かけの音量を抑えることや、トイレのドアの開閉など注意しているが、時に状況によって配慮に足りないところもある。入居者への言葉使いは馴れ合いに気をつけているが情報共有の不足から配慮がなされていないのではと省みることもある。	職員異動もあり、現任、新任を問わず改めて支援の再確認の意味で、基本的ケアに反映される認知症と認知症に対するケアやプライバシーに関する研修の実施を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと話して、できるだけ自分の意思で決められるよう、働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気持ちなどを尊重して、自分のペースで生活できるような柔軟な対応を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時など、自分で着たい洋服を選んで頂き化粧等をする様に取り組んでいる。自分で選べない利用者にも、季節や容姿に応じたふさわしい洋服を選ぶように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力量に応じて、野菜の皮をいいたり、食器・箸を準備される。食後は利用者自ら下膳、食器洗いなどをして頂いている。また畑から野菜を一諸に収穫を行ってコミュニケーションを図っている。	訪問調査時には配膳を手伝われる入居者がいたが、以前は出来た方も段々と機会が少なくなれることも予測している。食事介助を受けている入居者もその日の体調によっては、自分で食事を摂られることもあるので、生活力向上を目標に調理の過程に参加できるホットプレートを用いたお好み焼き作りなどして楽しむ機会も増やしていく予定である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量の少ない利用者については、充分確保できるよう声かけしている。水分摂取量の少ない方には、記録して一日の水分摂取量が摂れるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアチェック表を確認しながら、出来る利用者には声掛けし、口腔ケアを行ってもらっている。出来ない利用者には職員が支援し、清潔に保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に、入居者一人一人の排泄のサインを見極めながら、トイレでの排泄を支援している。	徐々にレベルダウンの傾向にあるのは否めないところがあり、尿意のない方はリハビリパンツ、パットで対応している。尿意があっても間に合わない方は時間誘導で出来る限りトイレにいていただくようにして、体調で変化されるのにあわせて普通の着にパットを時々使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い一人ひとりの排便パターンを記録しながら医師の指示のもと、個々に応じた下剤を用いコントロールを行なっている。リハビリ体操を取り入れて体を動かしてもらえるように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めては無く、毎日でも入浴は可能である。入浴を拒否される方は入浴の爽快感を伝え入浴に関心を高める支援している。	基本的に週3回としているが、毎日入りたいと希望される入居者には対応している。バイタルと入浴をあわせてチェックしており、入浴拒否のあらわれる方には理由を探りながら職員を交代したりと、働きかけで気分を変えていただき気分よく入浴していただくよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には居室で休んでもらい、安心して眠れるような声かけや雰囲気づくりに努めている。夜間眠れないような場合には、リビングで一緒に過ごしている。基本的に起床や就寝は本人に任せている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用、用法、用量についてはファイルにまとめてあり、職員がいつでも確認が出来るようにしている。薬の変更があるときはその都度、連絡ノートに書き、職員に周知するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者自身の出来る範囲で食事の準備や掃除等、それぞれが役割を持っている。また歌が好きな方には歌の本を用意したり、読書が好きな方には、本を用意して楽しむよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に行き、芝生で遊んでいる園児と接している。畑の仕事や草花の水やりを行っている。その時期により、花見やドライブ等も行っている。	近隣に歩いて買い物へ出かけるという立地ではないので、ホームで必要な食材などの買出しの際に、希望される入居者が同行されて車で買い物に出ることは日常的にある。福祉村内は、広大なスペースなので散歩には快適であり、他施設の職員のさりげない見守りもあことで安心が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が困難な方が多く、職員が管理している。入居時に家族と話し合いを行い、お金を所持時、お小遣いノートを作って管理をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いたり、本人が電話をかけたい時は、相手先の電話番号をダイヤルして相手呼び出して、楽しく会話ができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や観葉植物を置いて、居心地のよい生活空間を提供するよう努めている。リビングは広くスペースを取り、台所で調理する音が聞こえたり匂いも感じたりと家庭的な構造となっている	以前、通所施設だった建物を改築したので、リビング、台所、浴室はスペースは広い。家庭的な雰囲気を作るのが難しい点は台所をオープンにリフォームして補っており、メリットとして車椅子での移動は容易で、行事の際も家族、外来者を迎えるのに十分にゆとりがある。本年は感染症予防に配慮し、床を敷きこみのカーペットからコルク素材へ変える工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関入り口にはソファを配置し、自由に使えるようにしている。また、仲の良い利用者の方同士が食堂で隣の席に座れるように配置したり、自由にお互いの部屋を行き来出来るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での生活そのまま継続出来るように、使い慣れた家具等を持って来ていただくようお願いしているが、本人の状態により出来ない居室もある。	持ち込みの馴染みの品が少ないと思われる方には、家族に呼びかけを継続しており、職員が写真や作品、季節の飾りなどを壁に掲示して殺風景にならない配慮をしている。入居者によって家族の協力で持ち込みが多い居室もあり、季節に合わせて模様替えされたばかりという部屋は、飾りつけや整理に気配りされて家族の思いが伝わる居室である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計を基本として、玄関から廊下や居室までは歩行器・車椅子の方が自由に移動できるようにしている。施設内の主要箇所に手すりを設置し自分の力で安全に移動できるようにしている。		